

# NHK職員へのアンケート 「放送で使う漢字表記」についての意識

平成22年2月26日（金）に放送センターで第1330回放送用語委員会が開催された。これまでに引き続き、国が示す予定の「新・漢字表」を放送で使う表記にどのように取り入れるか審議を行った<sup>1)</sup>。

## 報告：放送で使う漢字についての

### NHK職員へのアンケート

第1327回放送用語委員会で行うことを報告したNHK職員へのアンケートの概要と結果について説明した。アンケートの実施概要は以下のとおりである。

#### アンケートの概要

実施時期：平成22(2010)年1月22日～2月15日  
対象：NHK全職員(10,617人)  
問題数：77問(76語+自由記述・意見)  
実施方式：NHKイントラネット「アンケートシステム」  
(ネットによる調査)  
回答数(率)：1,387人(13%)

## 1. 調査について

NHK職員全員が閲覧できる「NOCシステム」内にある既存のアンケート用システムを利用した。問題文と選択肢は次のとおりである。

#### 問題文(例)

Q. あなたが放送で使う場合としてお考えください。次に示す語の書き方はどちらがよいですか？  
選択肢の中から1つだけ選んでください(必ずお答えください)。できるだけ①と②から選んでください。なお、「①と②のどちらも使いたい」という場合は③の「どちらも使いたい」にチェックをつけてください。読みがな(ルビ)をつけて使いたいという場合は②にチェックをつけてください。そのうえで、自由記述欄に「ルビ」とお書きください。

#### 選択肢(例)

- ① 山ろく
- ② 山麓
- ③ どちらも使いたい

Q1の語の表記について、ご意見があれば書き込んでください。

選択肢の①は現行「常用漢字表」にもとづいたものでNHKが現在使っている表記、つまりひらがな表記や交ぜ書き表記、②は「新・漢字表」にもとづいた表記、つまり漢字表記が中心である。

質問では、職種についても聞いた。NHKで携わっている仕事を15項目から選択することにした。ニュースや番組の制作や取材をする立場なのか、それ以外の立場なのかを知るためである。回答者の中でニュースや番組の制作や取材をする立場の人は、967人(回答者のうち70%)である。

#### ○出題語の選び方

出題語76語は、表1に示したとおりである<sup>2)</sup>。

「新・漢字表」で新たに採用される漢字を放送でどのように使うかを考えたとき、番組制作者や用語班が判断に迷いそうな語を取り上げた。高校3年生の「読み」の調査<sup>3)</sup>で読めているが、ひらがなで書くことが多いと思われる語や、平成21年2月に行ったエリアサンプリングによる世論調査「放送における漢字表記についての調査」(以下、「2月調査」)<sup>4)</sup>で、ひらがなで書くことが求められている語だが、放送では漢字で書く希望が多そうな語を抜き出した。そのほか、次の3つのポイントでも語を選んだ。

(1) 読み間違いをしそうな語(例：「○○のたぐい/類」「つま先/爪先」「かこの模様/鹿の子模様」は、「るい」「つめさき」「しかのこ」と読む可能性がある)。

表1 アンケート出題76語一覧

\*出題順はランダム

出題No.	①	②	③
1	山ろく	山麓	どちらも使いたい
2	かのご模様	鹿の子模様	どちらも使いたい
3	このごろ	この頃	どちらも使いたい
4	せい惨	凄惨	どちらも使いたい
5	もてあそぶ	弄ぶ	どちらも使いたい
6	立てこもる	立て籠もる	どちらも使いたい
7	過酷	苛酷	どちらも使いたい
8	ひじ	肘	どちらも使いたい
9	ふさぐ	塞ぐ	どちらも使いたい
10	とうや	陶冶	どちらも使いたい
11	古さつ	古刹	どちらも使いたい
12	さかのぼる	遡る	どちらも使いたい
13	ころあい	頃合い	どちらも使いたい
14	うつぶんを晴らす	鬱憤を晴らす	どちらも使いたい
15	間げき	間隙	どちらも使いたい
16	しょうけい	憧憬	どちらも使いたい
17	はぐくむ	育む	どちらも使いたい
18	ののしる	罵る	どちらも使いたい
19	がい然性	蓋然性	どちらも使いたい
20	下がく骨	下顎骨	どちらも使いたい
21	あいさつ	挨拶	どちらも使いたい
22	つま先	爪先	どちらも使いたい
23	ねたむ	妬む	どちらも使いたい
24	かんがみる	鑑みる	どちらも使いたい
25	そう身	瘦身	どちらも使いたい
26	あてがう	宛てがう	どちらも使いたい
27	あご	顎	どちらも使いたい
28	車いす	車椅子	どちらも使いたい
29	さっそう	さっ爽	どちらも使いたい
30	せんべい	煎餅	どちらも使いたい
31	くずきり	葛切り	どちらも使いたい
32	神をおそれる	神を畏れる	どちらも使いたい
33	処方せん	処方箋	どちらも使いたい
34	あざける	嘲る	どちらも使いたい
35	うっとうしい	鬱陶しい	どちらも使いたい
36	つたない	拙い	どちらも使いたい
37	ごぶさた	ご無沙汰	どちらも使いたい
38	つめ	爪	どちらも使いたい

出題No.	①	②	③
39	ひきこもり	引き籠もり	どちらも使いたい
40	酔いつぶれる	酔い潰れる	どちらも使いたい
41	ほお張る	頬張る	どちらも使いたい
42	豆をいる	豆を煎る	どちらも使いたい
43	かご	籠	どちらも使いたい
44	進ちょく率	進捗率	どちらも使いたい
45	身ごもる	身籠もる	どちらも使いたい
46	憂うつ	憂鬱	どちらも使いたい
47	名誉棄損	名誉毀損	どちらも使いたい
48	生づめ	生爪	どちらも使いたい
49	のど	喉	どちらも使いたい
50	そ上	遡上	どちらも使いたい
51	〇〇のたぐい	〇〇の類	どちらも使いたい
52	むさばる	貪る	どちらも使いたい
53	からめる	絡める	どちらも使いたい
54	あいまい	曖昧	どちらも使いたい
55	表ざた	表沙汰	どちらも使いたい
56	ひじ鉄砲	肘鉄砲	どちらも使いたい
57	辛らつ	辛辣	どちらも使いたい
58	ふもと	麓	どちらも使いたい
59	ほころびる	綻びる	どちらも使いたい
60	さげすむ	蔑む	どちらも使いたい
61	補てん	補填	どちらも使いたい
62	ほお(ほほ)	頬	どちらも使いたい
63	ちょう付	貼付	どちらも使いたい
64	火ぶたを切る	火蓋を切る	どちらも使いたい
65	つぶす	潰す	どちらも使いたい
66	やせる	痩せる	どちらも使いたい
67	壊滅	潰滅	どちらも使いたい
68	肥よく	肥沃	どちらも使いたい
69	いす	椅子	どちらも使いたい
70	ひところ	一頃	どちらも使いたい
71	肝心	肝腎	どちらも使いたい
72	うつ病	鬱病	どちらも使いたい
73	禁固刑	禁錮刑	どちらも使いたい
74	塗りばし	塗り箸	どちらも使いたい
75	暇つぶし	暇潰し	どちらも使いたい
76	うらやましい	羨ましい	どちらも使いたい

(2) 同じ漢字を使っている語(例:「つめ/爪」「つま先/爪先」「生づめ/生爪」, 「うっぶん/鬱憤」「うとうしい/鬱陶しい」「憂うつ/憂鬱」「うつ病/鬱病」など, 単語によって意識が異なる場合があるため, 同じ漢字について, いくつかの単語で聞いた)。

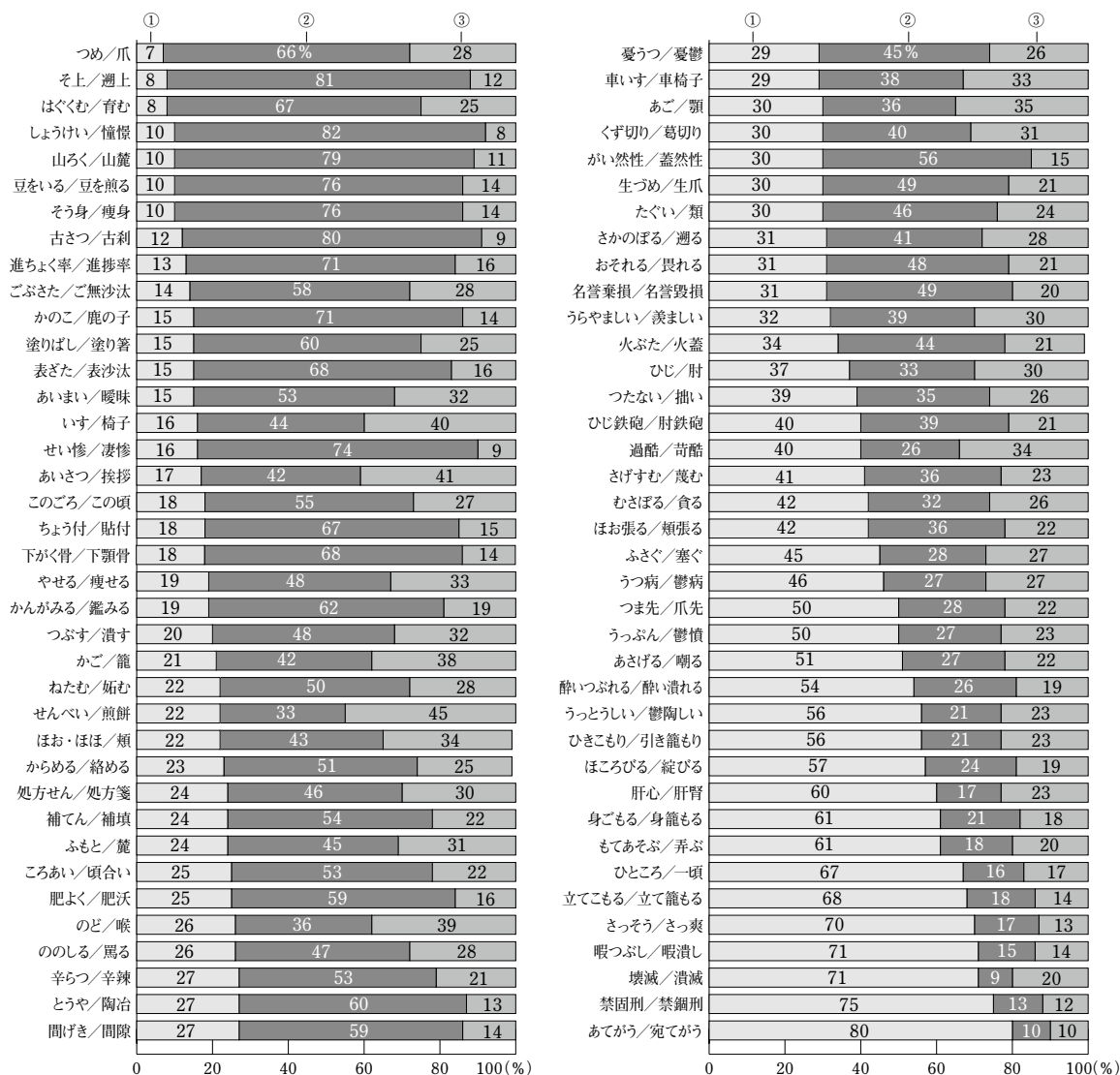
(3) いわゆる代用表記について(例:「過酷/苛酷」「名誉棄損/名誉毀損」「壊滅/潰滅」「肝心/肝腎」「禁固刑/禁錮刑」。いずれも, 前に書かれているのが代用表記)。

## 2. 調査の結果

76語の調査の結果は図1のとおりである。現在, NHKが使っている表記がよいと答える人が少ない順に並べた図である。

有効回答数は1,387人であり, これが「NHK職員」全体の傾向であると言うことはできない。調査に参加した人たちについて言えば, 漢字を使えるのであれば, 漢字を使いたいという考えを持っている人が多いことがわかる。

図1 調査結果(全体)



注: ①ひらがな・交ぜ書き表記, 代用表記 ②漢字表記, 本来の表記 ③どちらも使いたい

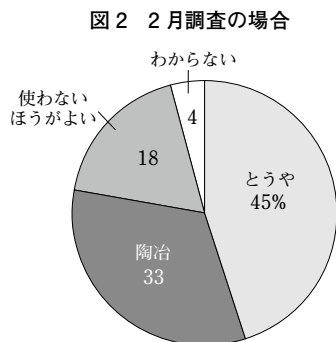
## 3. 調査結果の特徴

### ①「新・漢字表」の表記を希望する人が多い

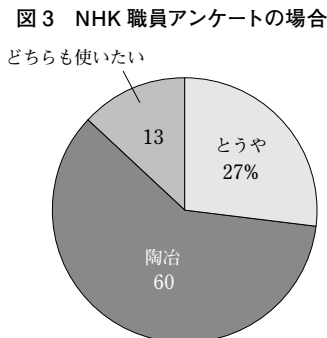
「代用表記」の5問を除いた71問全体の平均は、「交ぜ書き」：31%、「漢字」：46%、「どちらも使いたい」：23%で、番組で使う場合、漢字表記を使いたいという考え方をする人が多いという結果になった。職種による意識の違いはなかった。

「とうや／陶冶」について、2月調査<sup>5)</sup>とあわせて見る。調査方法と選択肢が異なるため、単純に比較はできないが、傾向を見ることはできる。

2月調査の結果は図2のとおり、「とうや」を希望する人が多い。



一方、NHK職員へのアンケートでは、図3のとおり、「陶冶」の希望が多い。



「陶冶」は高校3年生への「読み」の調査でも、読めていない語（正答率：1.4%）である。

このほか、2月調査と同じ語で聞いているのは、

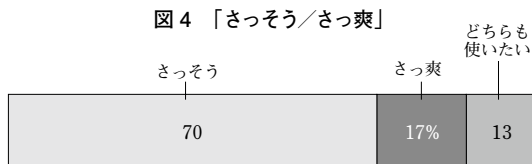
「進捗」「補填」「辛辣」「憂鬱」「頬張る」である。この中で「進捗」「補填」「辛辣」は「陶冶」と同じ傾向が出ている。

あまり読めておらず、視聴者には必ずしも漢字表記が望まれていない語であっても、NHK職員のアンケートでは、漢字の回答が優勢になっている。ほかの語（特に、音読み・漢語）についても、こうした傾向が見てとれる。

### ②交ぜ書きを避ける

ひらがなと漢字を交ぜて書くような書き方を「交ぜ書き」という。たとえば、「山のふもと」を指す漢語「さんろく」を「山ろく」と書くのが交ぜ書きである。こうした交ぜ書きは、漢語で行われるが、部分的にひらがなで書かれることで、読むことはできても、語の意味が捉えにくくなるという指摘がある。

「新・漢字表」で使える漢字が増えるために、新たに交ぜ書きになる「さっそう」について見る。「新・漢字表」では「爽」が入るが、「颯」は入らない。そのため「新・漢字表」にもとづいて表記すると「さっ爽」という交ぜ書きになってしまう。この表記と、現在の「常用漢字表」にもとづいた表記「さっそう」のどちらがよいかを聞いた。結果は図4のとおり、「さっそう」で答える人が多い。



自由記述欄では、「さっ爽」と交ぜ書きをするくらいであれば、ひらがなで書く、といった内容が多く見られた。

このほか、交ぜ書き表記か漢字表記かを選ぶ語については、漢字表記の回答が多い。

図5に示したとおり、漢字表記が6割以上になっている語は、「遡上」「山麓」「瘦身」「古刹」「進捗率」「表沙汰」「凄惨」「下顎骨」「貼付」である。

意識的に交ぜ書きを避けているようだ。

図5 交ぜ書き

そ上	遡上	どちらも使いたい
8	81%	12
山ろく	山麓	
10	79	11
そう身	瘦身	
10	76	14
古さつ	古刹	
12	80	9
進ちよく率	進捗率	
13	71	16
表ざた	表沙汰	
15	68	16
せい惨	凄惨	
16	74	9
下がく骨	下顎骨	
18	68	14
ちょう付	貼付	
18	67	15

図6 複合語

かご	籠	どちらも使いたい
21	42%	38
ひきこもり		引き籠もり
56	21	23
身ごもる		身籠もる
61	21	18
立てこもる		立て籠もる
68	18	14
つぶす		潰す
20	48	32
酔いつぶれる		酔い潰れる
54	26	19
暇つぶし		暇潰し
71	15	14

みする語と訓読みする語で、現行表記、漢字表記の回答に違いがあるかを平均で見るとやや異なった傾向を示している。

図7 「そ上／遡上」と「さかのぼる／遡る」

そ上	遡上	どちらも使いたい
8	81%	12
さかのぼる		遡る
31	41	28

### ③複合語の後部要素はひらがな表記

76語の出題の中で、同じ漢字について何問か聞いている。たとえば、「籠」「立て籠もる」「引き籠もり」「身籠もる」、「潰す」「酔い潰れる」「暇潰し」などである。同じ漢字を使っても、語によって表記の判断は異なるかもしれないと考えての出題である。図6のとおり、「籠」「潰す」と単独で使う場合には、漢字表記もしくは、どちらも使いたいという回答が多いが、複合語になると、ひらがなもしくは交ぜ書き表記の回答が多くなっている。

ひらがなで書くほうが見慣れているという理由もあるだろうが、複合語の後部要素の語の場合、ひらがな表記が選ばれることが少なからずあるようだ。自由記述欄では、「酔い潰れる」は「酔って動けなくなる」ことだが、「潰れる」だと「力が加わって形がくずれる」という意味が強まり、語の意味から違和感があるという指摘も見られた。

### ④音読み（漢語）と訓読み（和語）で書き分け

出題語を音読みと訓読みに分けて考える。音読

漢語を中心とする音読みは、漢字表記を選ぶ割合が高い（交ぜ書き24%、漢字55%、どちらも使いたい21%）。

一方、和語を中心とする訓読みは、ひらがなもしくは交ぜ書き表記と漢字表記を選ぶ割合が同程度である（交ぜ書き36%、漢字39%、どちらも使いたい25%）。

たとえば、「遡上」と「遡る」について見ると図7のとおり、同じ「遡」を使った語だが、音読みの漢語「遡上」の場合、漢字表記を選ぶ人が8割以上である。一方、訓読みの和語「遡る」になると、ひらがな表記と漢字表記で回答が割れる。

音読みの場合は漢字、訓読みの場合はひらがなといった書き分けをする傾向があるようだ。

## ⑤読み間違いをしそうな語はひらがなが優勢

活字メディアとは異なり、放送は、書かれている内容をアナウンサーが声に出して読むことがある。字幕スーパーは、読んでいる原稿の内容を補助するためのもので、読む原稿を前提としてルールを決めなければならない。

放送で使う漢字を考えるにあたって、2とおりの読み方がある場合、1つに決めておかなければ、読みが不統一になってしまう。また誤読と言われてしまう場合もある。こうした語は、漢字を使わず、交ぜ書きやひらがな書きにしたほうが、わかりやすいと考えられているようだ。

誤読をふせぐために考慮したらしいことは「つめ／爪」「生づめ／生爪」「つま先／爪先」の結果を見るとわかりやすい。

図1の一覧のとおり、「爪」は76語の中でもっとも漢字希望が多い語で、一方、「爪先」は交ぜ書き希望がやや多い語である。3語を抜き出して示したのが図8である。

図8 「爪」「生爪」「爪先」

つめ	爪	どちらか使いたい
7	66%	28
生づめ	生爪	どちらか使いたい
30	49	21
つま先	爪先	どちらか使いたい
50	28	22

同じ「爪」という字を使っている、回答が大きく異なっている。

自由記述欄には、「つめさき」と「つまさき」の読みのゆれを指摘する声が多い。「爪先」と漢字で書かれると、「つめさき」と読む可能性もある。「つまさき」と読んでもらうために、交ぜ書きで書いたほうがよいと考えているようだ。

## ⑥代用表記への抵抗感は低い

国は戦後すぐに「当用漢字表」を出し、昭和56(1981)年に「常用漢字表」を出した。これらの「漢字表」で使えない漢字は、国語審議会が同音で意味が似た漢字を代用したり、またはもともと2とお

り使われていた表記を1つにまとめたりして、表記を統一してきた。このときに「代用」された漢字がいわゆる代用表記である。このほかに、日本新聞協会(新聞社、通信社、放送局が加盟)が使用してきた代用表記もある。

新しい漢字表には、現代代用表記が定着していると思われる語で、代用表記ではない表記に使われる漢字が含まれている(例:「過酷」が代用表記で、「苛酷」がもとの表記。「新・漢字表」には「苛」の字が採用される予定)。一般に定着しており、誤解のない表記を検討するため、5つの代用表記について聞いた。

出題は、「名誉棄損/名誉毀損」「過酷/苛酷」「肝心/肝腎」「壊滅/潰滅」「禁固刑/禁錮刑」の5つで、いずれも前が代用表記である。

結果は、図9のとおりである。

図9 代用表記

名誉棄損	名誉毀損	どちらか使いたい
31	49%	20
過酷	苛酷	どちらか使いたい
40	26	34
肝心	肝腎	どちらか使いたい
60	17	23
壊滅	潰滅	どちらか使いたい
71	9	20
禁固刑	禁錮刑	どちらか使いたい
75	13	12

どちらの表記がよいかを聞くと、「名誉棄損/名誉毀損」以外は、いずれも代用表記として使われている表記を選ぶ人が多い。すでに、代用表記が一般に定着しているということだろう。

「名誉毀損」は、法律用語である。「毀」は「こわす」という意味がある。一方「棄」は「すてる」という意味の漢字で、語の意味から、「棄」では違和感があるということのようだ。

## ⑦読みにくい字は読みがな(ルビ)をつけて使用

今回のアンケートには、各設問に自由記述欄を設け、「ルビをつけて使いたい」という場合には、自由記述欄に「ルビ」と書くようにうながした。



ルビという記述が100件以上見られた語は、「遡上」「瘦身」「古刹」「下顎骨」「貼付」「鑑みる」「辛辣」「陶冶」「蓋然性」「鬱憤」「嘲る」である。

画数が多く、画面で見にくいと思われる語や、難読と思われる語について、ルビの回答が多い。漢字は使いたいが、視聴者が画面で見えて読めなかったり、見にくかったりすることを考慮して、ルビという判断がされるようだ。

#### ⑧文字数の制限

自由記述欄には、放送で使う漢字についてさまざまな意見が寄せられた。

その中で、「罵る」「遡る」「蔑む」「弄ぶ」などのように、訓読みで、1つの漢字で拍数の多い読みをする語については、「字幕スーパーの文字数によっては、漢字で書きたい」という記述が見られた。

放送の字幕スーパーは、横書きで、13文字が適当と言われている。最近は、20文字程度入れる場合もある。限られた文字数の中で、適切に伝えるために、漢字表記を選ばざるを得ない場合もあるというのが実態のようだ。

## 4. 意見

荻野綱男委員：通信によるアンケートで10%の回答率は普通だろう。母集団がNHK職員であり、学力などが一般より高めで、結果にややかたよがりがある。そのため調査の結果が国民の平均というわけにはいかない。ただ、現状を考えるよい資料にはなると思う。

分析については、交ぜ書きを嫌っているというのは確かに見てとれる。異なっているのは「つま先」ぐらい。1人の回答としては一貫しているようだ。ひとりひとりの基準があって答えているようだ。個々の回答より、全体の傾向を項目間の関連で分析したいと思う。集計のしかたとしては、2項目のクロス集計よりも多数項目を同時に扱う多変量解析の手法を用いるようにしたらどうだろうか。回答者の「基準」が明確になると思う。基準にあてはまる項目と、あてはまらない項目が見えてきて、わかりやすくなるのではない。

清水義範委員：すぐにこういった調査ができることがすごいと感じた。結果を見ると、新しく漢字が使

えるようになったら「使おう」「使いたい」という感じで答えが出ている。このことが不思議だ。

「新・漢字表」で漢字が使えるようになったから、そのまま漢字で書くというのではなく、慣れるまでの間は、慎重に表記を考えるべきだと思う。

井上史雄委員：職員調査の結果、回答者が漢字を使いたがっていることはよくわかった。今回の調査結果は「伝える側」の論理であり、「受け手側」の考えが類推できていないのではないかと。自分が知っているものを他の人も知っているわけではないことを、考慮しなければいけない。漢字が多く使われることで、NHKの放送がますます難しくなり、若い視聴者が離れるのではないかと心配もおこってくる。高校生漢字調査の結果との比較をしてはどうだろうか。

野村雅昭委員：調査の結果を見ると、NHK職員の漢字意識は一般の人と違っているという印象をうける。「NHKらしさ」が知らず知らずに浸透しているようだ。つまり、「語形」を大切にしているという点である。たとえば、「つまさき」ということばでいえば、「爪先」と書いて「つまさき」と読むか「つめさき」と読むかは、一般の人は気にしないことだ。漢字の読みがどうであろうと、「爪先」と書いて、何のことを言っているのかがわかればいいというのが、一般的な考え方である。しかし、今回の調査では、「つまさき」と読むか、「つめさき」と読むかを考慮に入れて、表記を考えようとしている。

文字で意味が通じればよい、というのではなく、音声で明確に伝えたいという意識がある。

規則を作る場合には、音声表現を主体とする場合はどうなのか、という点を考慮して考えることができるかが難しいところだ。また、語の仕分けが難しい。現在の『用字用語辞典』では、副詞や接続詞は「かな」で書くという原則を設けているが、「新・漢字表」について、この原則を当てはめることは難しいだろう。

天野祐吉委員：職員調査の結果と、自分の感覚は合っているなど感じる。ただ、どこが常識なのかはわからない。「常識」のラインをどこにひけばよいのだろうか。ほかの調査も考慮して、これが「常識だ」と決めてしまうしかない。「常識」はやや高めにセットしておいて、そこを基準にしてはどうだろうか。

井上由美子委員：視聴者の立場で考えてみると、もともと「ひらがな」で書かれていた単語の表記が「漢字」にかわってもさほど抵抗はないと思う。抵抗があるのは、漢字の「字体」が異なる場合や代用表記がもとの表記になるなど「表記」が変わってしまう場合だろう。その点を考慮に入れて検討してほしい。

水谷修委員：国が出してきた試案はこのまま決まりそうか。新聞各社はどのような考え方をしているのだろうか。

また、放送や番組を制作・取材をしている職種の人たちの回答が69%で、そのほかの職種の人が31%ということだが、職種による回答傾向の違いなどはチェックしているのだろうか。もしかすると、31%の人たちが表記を引っ張っていることも考えられる。チェックしておくべきだろう。

事務局：国は大筋でこのままで決めると聞いている。6月ごろに答申が出されるようだ。新聞各社は「新聞協会」で各社の代表が集まって検討している。

柳辰哉委員（報道局・部内委員）：調査をすることで、放送で使う漢字をみんなで決めるのだ、という意識が生まれてよかったと思う。

井上史雄委員からあった、「伝える側」と「受け手側」では意識が異なり、伝える側は受け手側の意識を類推できないのではないかと、という点については、回答者は視聴者の立場を考えて、答えているのだと思う。

ルビについては、現場の判断で、自由につけられるようにしてほしいと感じている。

早川信夫委員（解説委員室・部内委員）：調査の結果は、想像どおりだった。「漢字が使えるようになるのなら使いたい」という結果になると思っていた。視聴者の受け止め方を調査するものに比べると、どうしても漢字を使いたいという意識に引っ張られるだろう。

放送で使う表記を考えるときに、「使う側」の論理だけでよいのだろうか。私は慎重であるべきだと考える。高校生漢字調査との比較で、使う側と受け手側の意識の差が明確になるのではないかと。

川野芳水委員（編成局・部内委員）：この調査は、現場の思いが反映されていると思うので、結果を尊重してほしい。

## 5. 今後について

現行の『NHK 新用字用語辞典』に掲載されている項目をもとに、事務局を中心に検討を行い、変更点などを用語委員会に提案する。

検討に際しては、これまで行った調査の結果を参考に、語によっては「ひらがな」「漢字」2とおりの表記を提案するなどの「表記のくふう」を検討する。

このほか、議題として「ことばの読みについて」も配付した。

今回の用語委員会では、議題の配付のみで、議論は、次回に持ち越しになった。

山下洋子（やました ようこ）

注：

- 1) 山下洋子 (2009) 『『常用漢字表』見直しに対するNHKの対応 (第1316回放送用語委員会)』『放送研究と調査』第59巻3号
- ・小坂橋靖夫 (2009) 「NHKの漢字使用 (第1318回放送用語委員会)」『放送研究と調査』第59巻4号
- ・山下洋子 (2009) 「NHKの漢字・文字使用についての基本方針 (第1321回放送用語委員会)」『放送研究と調査』第59巻9号
- ・山下洋子 (2009) 「NHKの漢字・文字使用について (第1323回放送用語委員会)」『放送研究と調査』第59巻11号
- ・山下洋子 (2010) 「放送で使う漢字の音調についてのアンケート (第1327回放送用語委員会)」『放送研究と調査』第60巻2号
- 2) 出題語および本文の漢字の字体は、パソコン・ワープロで出る字体に統一した
- 3) 小坂橋靖夫 (2009) 「高校3年生は、『新・常用漢字』をどのくらい読めるか (1)」『放送研究と調査』第59巻10号
- ・小坂橋靖夫・柴田実 (2009) 「高校3年生は、『新・常用漢字』をどのくらい読めるか (2)」『放送研究と調査』第59巻11号
- 4) 塩田雄大 (2009) 「視聴者はどのくらい“漢字表記”を求めているのか～『放送における漢字表記についての調査』から～」『放送研究と調査』第59巻7号
- 5) 4) と同じ

### 第1330回放送用語委員会（東京）

【開催日】平成22年2月26日（金）

【出席者】水谷 修氏、井上史雄氏、天野祐吉氏、野村雅昭氏、清水義範氏、井上由美子氏、荻野綱男氏、岩澤忠彦 NHK放送文化研究所長 ほか